



日本私立小学校連合会

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館6階

電話 03(3261)2934

日私小連 「2020年代の教育宣言」の 作成経過と作成趣旨

—日本近代教育史と日私小連の歴史に学び新たな時代へ—

日本私立小学校連合会 会長

東京私立初等学校協会 会長

「2020年代の教育宣言」作成委員会

委員長 重永 睦夫

(東京都市大学附属小学校校長)

1. 作成委員会設置から「2020年代の教育宣言」の採択まで

日本私立小学校連合会の「教育宣言」は今回で第6次の宣言となります。

この「2020年代の教育宣言」を作成するために、2019(令和元)年10月18日、第6回常任理事会において作成委員会の設置が決められました。

作成委員	会長	小泉 清裕	先生(東京：昭和女子大学)
	副会長	斎藤 滋	先生(関東：桐光学園)
		山本 義和	先生(西日本：須磨浦)
		関 博之	先生(北海道・東北：会津若松ザベリオ学園)
		中村 和子	先生(九州：福岡雙葉)
		重永 睦夫	(東京：東京都市大学附属)
常任理事		山崎 昭彦	先生(東京：聖ドミニコ学園)
		小島 理恵	先生(東京：目黒星美学園)

以上のうち、小泉・山崎・小島の各先生ならびに重永が常任作成委員になり、重永が作成委員長に就きました。

11月13日の第一回常任作成委員会で、重永より、歴代「教育宣言」それぞれについて、①内容の骨子②特徴的なキーワード③総字数について報告を行うと共に、作成の進め方として、次の3点を確認しました。①重永が新しい宣言草案をまとめる。②作成委員会の議を重ねて宣言原案とする。③日本私立小学校連合会の正副会長会において原案の了承を得る。

以後、常任作成委員会を重ね、副会長の先生方にもご意見を伺いながら、合計8回の修正を経た後、

2020(令和2)年6月に行われた日私小連定期理事会(書面会議)において「2020年代の教育宣言」が採択されました。書面会議としたのは、年初からの新型コロナウイルスが吹き荒れる中、「3密」(密閉・密集・密接)を避けるためです。ちなみに同年6月19日に開かれた正副会長会もZoomミーティングにより実施しました。

2. 歴代「教育宣言」と「2020年代の教育宣言」

それでは、「2020年代の教育宣言」(以下、2020年代宣言)が歴代「教育宣言」から引き継いだ点等について述べてまいります。

※ご参考までに、詳細な振り返りは2010年代宣言の作成委員長清水良一先生(当時立教女学院小学校校長)によってまとめられていることをご紹介します。(日私小連『会報第296号』2010(平成22)年10月15日号)

○文体

2000年代宣言までは「である調」であったのが、2010年代宣言において「ですます調」に改められました。「ですます調」の方が柔らかい響きですので、2020年代宣言においても踏襲しました。

○前文と本文の区別

2000年代宣言までは、「激動の70年代」や「21世紀の開幕を目前」というような「時代」を表現する前文が置かれ、本文において3つの内容が記述されるというスタイルでした。しかし、2010年代宣言では、それまでの前文の内容に3つの内容すべてを盛り込み、一本の文章とするスタイルが採用されました。2020年代宣言においても、短い記述の教育宣言を前文と本文に分かつ必要はないという考え方に立ちました。

○見出しの有無

2000年代宣言までは、本文が3段落に分けて記述されており、それぞれの段落に見出しが付けられていました。「われらの決意」「われらの教育」「われらの協力」という見出しです。しかし、2010年代宣言において、前述の記述スタイル採用によって見出しが消えました。2020年代宣言でも、それを踏襲しました。

○キーワード

私立小学校の「教育宣言」ですから、歴代宣言には、表現に多少の異同はあっても、共通するキーワードが散りばめられています。例えば、

「建学の精神、児童愛、伝統と特色、画期的・先駆的教育実践、開拓者、世界の平和、国民の基礎的資質、未来を切り開く、児童の個性・可能性、創造的児童文化、心身の鍛錬と豊かな人間性、私学人の自覚、研修と自己錬磨…」等の語句です。

また、その時々新たに付加されたキーワードもあります。例えば、次の語群です。これらは時代の進展によるもので、新たな課題の要請にこたえるものとして当然のことでした。

2000年代宣言

「国際化、情報化、科学技術、自然環境保全」

2010年代宣言

「自由と人権、知識基盤社会、持続可能な自然環境、広い視野、共感する力、初等教育」

一方で、それまでの宣言で使われていたものが削除されたキーワードもあります。

1990年代宣言

「私学の本領」

2010年代宣言

「国公立小学校との連携」

削除されたキーワードに基づく活動は、その後の日私小連の動きを眺める限り、不要なものとして切り捨てられたわけではないことを付言しておきます。

○総文字数

さて、前述したキーワードないしその精神は今日においても輝きを失っていません。従って、2020年代宣言にも努めて盛り込むようにしました。それに加えて、2020年代を象徴するキーワードも記す必要がありますので、2020年代宣言の総文字数は2010年代宣言を100字ほど超えるものとなりました。作成委員会においては、この総文字数ということを重視して推敲を重ねました。というのは、日私小連の教育宣言は、各加盟校の職員会議において朗読されることもあったからです。最初の1970年代宣言の作成委員長は人見楠郎先生で、人見先生が校長をされた昭和女子大附属昭和小学校においては、今でも毎月一回全教員で朗読されているそうです。他にも朗読を続けている加盟校があるのではないかと思います。朗読するためには簡潔さが求められます。そのため、1990年代宣言までは約500字に収められていました。2000年代宣言で約600字に増えましたが、2010年代宣言では400字にまで切り詰められました。

2020年代宣言においては初心に立ち返り、全加盟校が少なくとも一年に一度は、できれば学期に一度は朗読して私立小学校の立ち位置を確認するようにしてほしいと考えました。そのため総字数を600字以内に収めることを目標としました。

作成委員会の苦心の跡を知ってもらうために、草案初稿から修正するごとの文字数の推移を示しておきます。599字→557字→647字→699字→653字→631字→602字→592字→最終案588字

途中700字近くに及んだこともありましたが、目標に近づけるため推敲をくりかえしました。

3. 2020年代に迎える節目の数々

以上のようにして作成、採択された「2020年代の教育宣言」ですが、私が作成委員長を引き受けて最初に頭をよぎったのは小泉会長が常々口にされていた以下のことでした。すなわち①「新・新教育運動」、②江戸時代の私立小学校ともいべき寺子屋教育が明治維新後の学制の基になっていること、③「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」という古人の名言の3点です。それから大戦直前の国民学校令において私立小学校が廃止されようとした時、それに果敢に立ち向かった先人の輝かしい苦闘も記録に留めたいと思いました。それで改めて勉強し直してみたところ、2020年代は、次にみるように、私学教育に関わる多くの節目を迎えることに気付いたのです。

①学制施行から150年

日本において初めて義務教育を定めた「学制」が施行されたのは、1873(明治6)年のことです。ここに我が国の近代的教育制度が始まったわけですが、2023年に150周年を迎えます。(※「義務教育」という言葉が使われたのは1886(明治19)年から。)

この学制によって、53,760校の小学校設立が目標とされました。しかしながら、当初は12,558校、3年後の1875(明治8)年においても目標の半分に満たない24,303校の設置にとどまりました。とはいえ短期間のうちに急速に小学校が日本全国に設立されたことは特筆すべきことです。ちなみに、今日の小学校数が

およそ20,000校弱ですから、目標の半分に達しない24,303校という数字であっても驚異的な設立スピードであることは間違いないことです。

さて、ここにおいて力を発揮したのが、江戸時代に発展を遂げていた寺子屋でした。明治政府は寺子屋をそのまま小学校にすることを認めて(というより利用して)目標数を達成しようとしました。当時、全国に16,560軒の寺子屋があったといえますから、その全てが小学校に移行したとすると7割近くの小学校が寺子屋由来ということになります。(『日本教育史資料』(1890-1892年刊 二十三巻))

政府はその後急速に小学校の公立化を進めましたが、日本の学制の初期は寺子屋、言葉をかえれば私学が担ったということを忘却の彼方に追いやることは許されません。1885(明治18)年に至っても公立小学校27,763校(児童3,057,137名)に対して私立小学校520校(児童40,098名)に上ります。(小針誠『お受験』の歴史学』2015年10月刊)

②「大正新教育・八大教育主張講演会」から100年

政府によって多くの小学校が公立化されていく中で、20世紀を迎える頃には教育の国家統制が進み教育の画一化も進みました。そういう流れの中でも、慶應義塾幼稚舎やキリスト教系小学校は独自の教育理念に立って児童中心教育を進めました。そして、それに続くように自由教育を標榜する大正新教育運動が起こりました。この運動の中で児童の自由や個性を重視する私立小学校が続々と誕生することになります。このところ、創立100年を迎える学校が数多くありますが、それらの学校群が誕生したわけです。

そして、これらの新教育運動(自由教育運動)にかかわる教育家が集まって開かれた講演会があります。1921(大正10)年8月に東京高等師範学校を会場として開かれた「八大教育主張講演会」です。公立学校に関わる人物もいますが、大半は私学関係者です。今も「全人教育」という言葉が使われますが、この八大教育主張講演会において小原國芳先生が使われた言葉です。この講演会の内容は1976年に玉川大学出版部から小原國芳先生によって復刻されています。また講演会の熱気あふれる模様について玉川大学玉川学園のホームページで知ることができます。

2021年は八大教育主張講演会から100年の節目となります。

③日本私立小学校連合会結成80周年

さて、私たち私立小学校が絶対に忘れてはならないことについて筆を進めます。

八大教育主張講演会から20年が経とうという1940(昭和15)年の暮れ、12月24日のことでした。当時の橋田邦彦文部大臣がラジオ放送で耳を疑うことを発表しました。翌年に制定する準備が進められていた「国民学校令」に関して、橋田文相の「全国の小学校を廃止し国民学校に移行する。しかし私立小学校は国民学校に移行することなく廃止する」という趣旨です。閣議決定に基づくということでしたが、藪から棒とはこういうことかというほど、まったく寝耳に水、唐突も唐突な発表でした。

しかし、私たちの先人は時を置かず瞬時に立ち上がりました。廃止発表の翌々日26日には数名の私立小学校校長が文部省に方針撤回を求めて談判に及んでいます。特筆すべき先人の名前は、濱野重郎先生(清明学園)、佐藤藤太郎先生(むさしの学園)、清岡暎一先生(慶應義塾幼稚舎)、鷺尾知治先生(目白学園)、谷口武先生(和光学園)、佐藤瑞彦先生(自由学園)、高橋喜藤治先生(暁星)の7名の先生です。

方針撤回しない政府・文部省に対して翌年1941年2月8日には、31校45名の校長・教員が暁星小学校に集結し、抗議の声と廃止撤回運動の方針を話し合い、私立小学校の全国組織を発足させました。私立小学校の教育を守り抜く揺るぎない信念による粘り強い運動の結果、ついに廃止決定は撤回され、私立小学校の灯は守られました。但し、制約がありました。公立国民学校と同等ではないこと、小学校の名称は継続しないことなどの制約です。そのため、私立小学校は「初等学校」や「初等部(科)」等に名称変更



を余儀なくされました。

※戦後、国民学校令が廃止され小学校が復活しても、これらの学園の多くは「初等」の名をそのまま継続しました。東京私立初等学校協会も名称を戻しませんでした。そこには意地と誇りが詰まっていると云えます。

以上のことは、本連合会最初の記念誌『日本私立小学校連合会のあゆみ－創立35周年記念－』（1977（昭和52）年5月刊）に詳しいので、是非とも手に取ってお目通し願います。特に、同誌12頁以降、佐藤瑞彦^{みずひこ}会長（自由学園^{ほとばし}）の進る熱き思いは必読です。そこでは、佐藤先生が文部大臣に学習院の存在をどう思うか問うた途端、文部大臣が絶句したという秘話も語られています。

この運動の中で、日本私立小学校連合会の結成へと向かうのですが、前述のような危機的状況のなかだからでしょう。本連合会の名称で結成されたという明確な記録は残っていません。いずれにしても、私立小学校の危急存亡の秋にあたり、「日本私立小学校連合会」は、先輩諸氏の私立小学校を守る確固たる信念と同志的結合を基に、1941（昭和16）年に産声を上げたのです。

2021年には日私小連結成80周年を迎えます。

※注1、前述の『日本私立小学校連合会のあゆみ－創立35周年記念－』（1977（昭和52）年5月刊）を繙^{ひもと}きますと、青柳義智^{よしちよ}代会長（宝仙学園）の巻頭言のなかに次の一節を見つけることができます。

「（日私小連は）設立準備会もなければ会則に従っての創立総会も開かれていない。

また団体の会則さえも結成当時はなかったのではないと思われる。現在の会則の付則をみると、“本会は昭和16年12月16日同志的な結合により無会則にて発足し、慣行によって運営されてきた”とあり、更に付記には、“昭和26年（月日不詳）会則を成文化する”とある。」

※注2、『日本私立小学校連合会－結成50年のあゆみ－』（1992（平成4）年6月刊）に収録された年譜には次のように記されています。（126頁）

- ・1941（昭和16）年2月8日「東京私立小学校連合会再建 全国私小協議会発足」
- ・同3月1日「国民学校令公布」、
- ・同4月1日「東京初等学校協会結成 全国連絡事務所設立」

※注3、なお、前述青柳会長の巻頭言で触れられている「会則の付則」「付記」について、その後の変遷を日私小連事務局において調べてくれましたので、向後の研究の参考のために、ここに載せておきます。

①1996(平成8)年度「会則」付記

1. 本会は昭和16年12月16日同志的結合により無会則にて発足し慣行により運営されてきた。

1. 昭和26年 月 日(月日未詳)本会の会則を成文化し実施。

1. 昭和36年11月10日 会則改定

②1997(平成9)年度「会則」付記

1. 本会は昭和16年12月16日同志的結合により無会則にて発足し慣行により運営されてきた。

1. 昭和36年11月10日 会則改定

③2006(平成18)年度「会則」付記

1. 本会は昭和16年12月16日同志的結合により無会則にて発足し慣行により運営されてきた。

1. 昭和36年11月10日 会則制定

以上に見る通り、①1996年度まで付記されていた「昭和26年会則成文化実施」に関するものが、②1997年度において削除されています。そして③2006年度には、「昭和36年11月10日会則制定」というように「改定」が「制定」に変更されていますが、特段の説明はありません。以後、今日まで「制定」のままですが、元来、昭和26年に会則が成文化、実施されているのですから、今後は、①1996年度までの表現に正すべきだと思います。

④私立学校振興助成法公布から50年

戦後、日本国憲法のもと新学制が敷かれ新たなスタートを切った私学でしたが、最大の課題は財政問題でした。戦争被災によって校舎が丸ごと焼失したところも少なくなく、授業の再開は困難を極めました。その解決のために1947(昭和22)年、「日本私学団体総連合会」が結成されました。運動の成果は、1949(昭和24)年「私立学校法」、1952(昭和27)年「私立学校振興会法」と少しずつではあっても着実に実を結んでいきました。1953(昭和28)年には「私立学校教職員共済組合法」も成立し、いわゆる私学三法がそろったわけです。この三法のもとで運動は大きく発展し、1970(昭和45)年には私立学校に対する経常費助成が実現しました。運動は父母にも広がりを見せ、1975(昭和50)年、ついに「私立学校振興助成法」の成立へとこぎつけました。ここに私学四法がそろい経常費の2分の1の公費助成とする目標が明確化されました。2025年に私学振興助成法公布から50周年を迎えます。

以上、2020年代に節目を迎えることになる事跡について振り返ってみました。これらを私たちの胸にしっかりと刻み、先人の偉業を引き継いで、私立小学校の教育の発展のために、私たちも努めてまいりましょう。それでは、続けて、「2020年代の教育宣言」に盛り込んだもう2つのことに触れておきます。

4. 22世紀への百年、人工知能(AI)の発達について

①「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」について

この言葉の出典は中国古典の『管子』で、「一年の計は穀を樹うるに如くはなく、十年の計は木を樹うるに如くはなく、終身の計は人を樹うるに如くはなし。一樹一穫なる者は穀なり、一樹十穫なる者は木なり、一樹百穫なる者は人なり。我れ苟も之れを種う、神の之れを用ふるが如し。事を挙ぐる事神の如き、唯れ王の門。」という言葉によります。

意味は次のように解釈できます。「一年で収穫をしようと思ったら穀物を植えるのが一番良く、十年で収穫を得ようと思えば木を植えるのが一番良い。一生をかけて取り組むつもりであれば、人を育てることに及ぶものはない。穀物は一を植えて一の収穫があり、木は一を植えて十の収穫がある。一を植えて百の

収穫があるのが人材なのである。私がかかりそめにも人を育てるということは、神が人を育てるのと同じことである(そういうつもりで人というものは育てなければならない)。物事を計画し成功に導きたいと思つたら、これも神のようにすることこそ王道である。』

「教育は国家百年の大計」という言葉の方が人口に膾炙^{かいしや}していますが、「百年樹人」がもとになってできた成句です。

2020年代の小学生は、生きて22世紀を迎える可能性が開けている世代です。この世代をどのように育てていくか、私たちには大きな責任があります。前述の『管子』の言葉を「2020年代の教育宣言」に盛り込んだゆえんです。

②人工知能(AI)について

コンピューターの発達に関する「ムーアの法則」が知られるようになって既に久しく、ここ数年においては、レイ・カーツワイルの提唱に始まる「シンギュラリティ」という言葉も広く知られるようになってきました。

ムーアの法則は「半導体の性能は1年半ごとに倍になることから、10年後には100倍となり、20年後には1万倍を超え、30年後には100万倍を超える性能となる」というもの、シンギュラリティは「人工知能(AI)の性能が“全人類の知能の総和”を超える特異点が西暦2045年にやってくる」というものです。

以上の真偽は専門家あるいは歴史にゆだねるしかありませんが、いずれにしても、そう遠くない時代に、人工知能(AI)が我々の想像もつかない発達を遂げることは間違いないことと思われまふ。「人工知能(AI)が人工知能(AI)を創る」ようになって、その連鎖が続く時代に、人類はどのように対処できるのか？人類は人工知能(AI)に支配されるという人もいれば、人類は滅びるといふ人もいます。これらは想像の彼方にあるわけですが、大事なことは、どんな時代が来ようとも、私たちがいま現に育てている子どもたちを、すなわち未来に生きる人類を、人工知能(AI)の支配のもとに置くことがあってはならないということではないでしょうか。

歴史は文明の利器の発達に彩られています、同時にそれらを使いこなすためには、その発達に比例して人間の心をさらに豊かにすることが求められてきた歴史でもありました。社会が複雑・高度な組織もち流動的になるにつれ、より人間性の豊かさが問われてきました。否応なく人工知能(AI)と付き合っていかなければならないこれからの社会は、これまでの社会以上に、生身の人間にしか備わっていない心を育てていくことが大事だと言えます。

以上の思いから、「この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。」というフレーズを宣言の中に入れました。

5. 結び

「2020年代の教育宣言」をまとめるに当たっては、2010年代までの歴代宣言も読み直しました。どれも素晴らしい輝きに満ちています。それらを土台にできたおかげで、草案を書き上げることにさほど苦勞はありませんでした。でも拙稿故、手直しが大いに必要でした。修正経過を一つ一つ挙げることは紙幅の関係で出来ませんが、作成委員の先生方の限りないお知恵を借り重要な字句の修正はもちろんのこと、微妙な言い回しなど数多く手直しをしました。

最終原案に対して、新型コロナウイルスに触れた方が良いのではないかと重要な提案もありました。しかし、これが2020年代をどう貫くか未知数のこともあり、見送りましたことに触れておきたいと思ひます。

今後、この教育宣言の朗誦が全国に響くことを願って本稿を閉じます。

2020 年代の教育宣言

2020 年代、私たちは多くの節目を迎えます。学制施行から 150 年。「大正新教育・八大教育主張講演会」から 100 年。私立学校振興助成法公布から 50 年。殊に 1941 年、国民学校令に合わせた私立小学校廃止の動きから「初等学校」の灯を守り、日本私立小学校連合会が産声をあげて 80 年となります。これらの節目において常に私立小学校は存在感を示してきました。この歴史に誇りをいただき「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」と言った古人にならい、私たちは新たな百年に向けて人を育てる営みを続けます。

2020 年代は、人工知能 (AI) の想像もつかない発達等によって劇的な社会変革を迎えると言われます。しかし、この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。

そのために、私たちは、

- 一、それぞれの建学の精神に則り多様な特長をもつ学校群として、伝統を重んじつつ、自由と人権、児童一人一人の個性を尊びます。
- 一、児童愛をかたときも離さず、児童の内なる可能性を引き出す方法を実践・探求します。
- 一、未来を切り拓く資質と心豊かな人間性を育成します。
- 一、真の世界平和と持続可能な環境の維持をめざして、広い視野をもって考え、共感する心や他者尊重の心を育みます。

私たちは、新たな時代に向けて私学人としての自覚を持ち、お互いに磨き合い、我が国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2020 (令和 2) 年 6 月 12 日

日本私立小学校連合会